

論文審査の結果の要旨および担当者

報告番号	※ 甲 第	号
------	-------	---

氏 名 河村 江里子

論 文 題 目

ハイリスク妊婦とそのパートナーの親性の変化と影響因子
－妊娠期から児の退院後の縦断研究－

論文審査担当者

主 査 名古屋大学教授 西谷 直子

名古屋大学教授 佐藤 一樹

名古屋大学教授 浅野 みどり

論文審査の結果の要旨

我が国では出産年齢の高齢化、高度生殖医療技術の発展など現代社会の様々な影響によりハイリスク妊婦が増加し、少子化と育児困難という緊急かつ重要な課題に直面している。様々な障壁の中で、男女ともに親への移行における課題と支援を検討することは重要である。

そこで、ハイリスク妊婦外来を受診した妊婦とそのパートナーを対象として、彼らの「親性」に着目し、(1)妊娠期から児の退院後の両親の親性の変化、(2)妊娠期、出産後、児の退院後の親性の性差の有無、(3)各期間における親性の影響要因を検討した。

本研究では、親性の検証のために、育児期の親性尺度 (Scale of Early Childrearing Parenthood : 3 下位尺度、33 項目、以下 SECP) を用い、妊娠期、出産後、児の退院後の全 3 回の縦断調査を行った。影響因子に関しては、参加者の背景、産後うつ病自己評価票 (出産後)、育児ストレス(児の退院後)等を調査した。127 部の質問票を配布、有効回答妊娠期 85 名 (98.8%)、出産 36 名 (28.3%)、児の退院後 31 名 (24.4%) を分析対象とした。なお、親性の変化については、3 期全てに参加した 31 名を分析対象とした。

本研究の新知見と意義は要約すると以下のとおりである。



1. 妊娠期から児の退院後まで、父母ともに SECP 得点 (平均値) は有意に上昇しており、3 期すべてにおいて性差はみられないことが確認された。
2. 妊娠期と出産後の SECP 総点は父親の方が母親よりも高かったが、母親では妊娠期から出産後にかけて著しい得点の上昇がみられた (父親 : 117.18→125.82, 母親 : 110.30→125.30)。
3. 児の退院後(3 回目)においては、SECP 総点の平均値は母親が父親よりも高くなっていた。
4. 重回帰分析の結果、妊娠期から児の退院まで一貫して、親の SECP には不妊治療が共通して関連しており、出産後は産後うつ、児の退院後は育児ストレスと関連していた。
5. ハイリスク妊婦外来で不妊治療を受けた夫婦では出産がゴールとならないよう、夫婦を 1 単位と捉え親性の発達を阻害する要因に介入し個別の長期的支援の必要性が示唆された。

本研究はハイリスク妊産婦への支援を強化し、妊娠中からの「シームレスな支援」に焦点をあて父親・母親の両方のデータを含めて検証したことで、支援の必要性を強調することができたと考える。また、先行研究における SECP のデータは出生から生後 1 年までしかカバーしていなかったが、本研究で妊娠期のデータを含めて調査したことは新規性があった。そして、新たに親になるための困難を克服する不妊治療歴のあるカップルを支援、親となる養育期家族の Well-being 向上や少子化対策に貢献する一助として重要な知見を提供した。

以上の理由により、本研究は博士 (看護学) の学位を授与するに相応しい価値を有するものと評価した。

本研究の成果は、BMC Pregnancy and Childbirth (IF : 3.164) に掲載された。

試験の結果の要旨および担当者

報告番号	※第	号	氏名	河村 江里子
試験担当者	主査	名古屋大学教授	名古屋大学教授	名古屋大学教授
	西谷 直子		佐藤 一樹	浅野 みど 

(試験の結果の要旨)

主論文についてその内容を詳細に検討し、次の問題について試験を実施した。

1. ハイリスク妊婦とそのパートナーへの支援の方向性と地域との連携の在り方について
2. 親性の変化への影響要因の妥当性（調査項目の過不足）および調査期間の妥当性に関する見解について
3. 調査対象の代表性と適格基準、バイアスの可能性について
4. 各期（妊娠期・出産後・児の退院後）の親性に父母間の有意差がなかった理由について
5. 親性の推移に関する解釈の妥当性（とくに父親）について
6. 重回帰分析結果の表の示し方・縦断的变化図の示し方について
7. とくに不妊治療を経験するハイリスク妊婦とそのパートナーへの支援の方向性とポイントについて

以上の試験の結果、本人は深い学識と判断力ならびに考察力を有するとともに、看護学一般における知識も十分具備していることを認め、学位審査委員合議の上、合格と判断した。